

# モモ・スモモ

佐賀県果樹試験場 落葉果樹研究担当

前山 美和



せん定を徹底するとともに、羅病枝は絶対に園地外に除去しましょう。

昨年は台風被害もほとんどなく、枝が充実しています。今年のせん定では、結果枝に中長果枝を中心に利用し、短果枝の整理をしましょう。

## 一・二月の管理

### モモ・スモモ共通

#### 苗木の植え付け

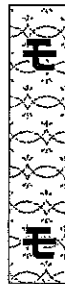
秋に植え付けを行っていない方は、次の点に注意して二月中旬～三月に実施してください。

- ① 完熟堆肥、熔リン一・五kg、苦土石灰二～三kg、配合肥料を土と良く混和し、高畝にします。また、土壌物理性を良くするために完全に焼けたモミ殻燻炭を三～四kg投入します。

- ② 傷んだ根は健全な部分まで切り返し、根が重ならないように四方に広げて植え付けます。
- ③ 深植えにならないように注意し、接木部がでるようにします。
- ④ 植え付け後、根と土がなじむように十分かん水し、乾燥防止のためにワラ等を敷きます。
- ⑤ 苗木は充実した葉芽で切り返し、苗木が動かないように支柱で固定します。
- ⑥ 平棚仕立ての場合は、苗木を一〇〇～一二〇cmの高さで切り返します。

モモ園にまた新しくモモを植え付け

ける時は、根をしっかり取り除く、客土をする、完熟堆肥を投入し初期生育を良くする、植え付け場所を替えるなどをするので、いや地現象を出にくくします。



#### 整枝・せん定

まだせん定が終了していない園地では、せん定作業に入る前に園地の状況を再確認し、隣接樹との間に枝が交差しているようであれば、縮・間伐を行います。整枝・せん定については、次のことに注意し、第一図を参考に行ってください。

- ① 上向き強い枝(1m以上)は、切り返さずに水平に誘引して勢いを弱め、三本に一本は間引く。

- ② 側枝については長果枝を三分の一切り返すか、一五cm以下の短果枝からの伸長枝を二～三年利用する。

また、着果不良の側枝は早め

改植する場合はいや地現象を防ぐために客土や完熟堆肥、定植地の変更などを行いましょ。



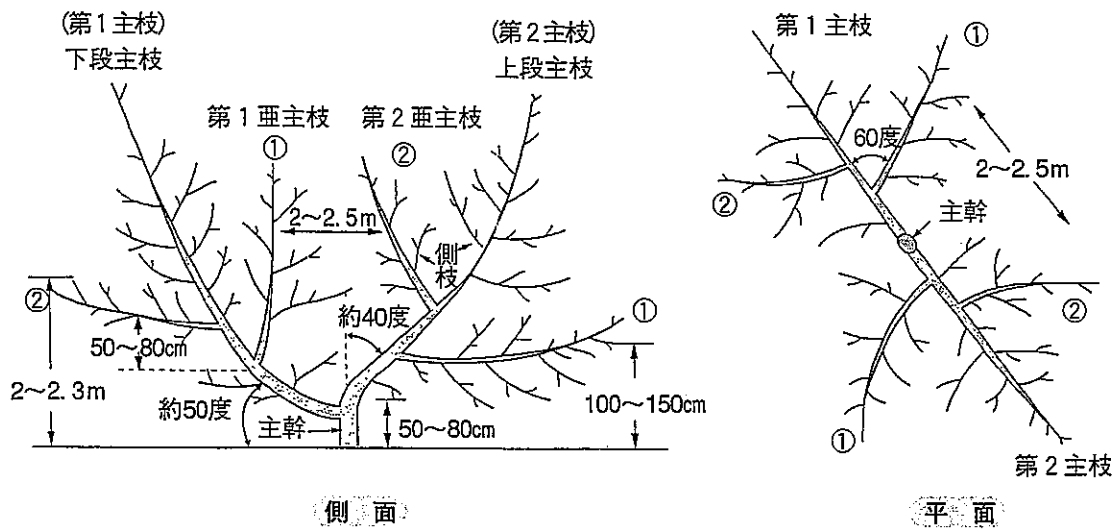
に更新する。

特に側枝の場合、長く利用するほど亜主枝化して樹勢・樹形のバランスを乱しせん定を難しくしてしまいます。

側枝は三～四年を目安に更新し、樹形の維持と側枝の若返りをはかりましょう。

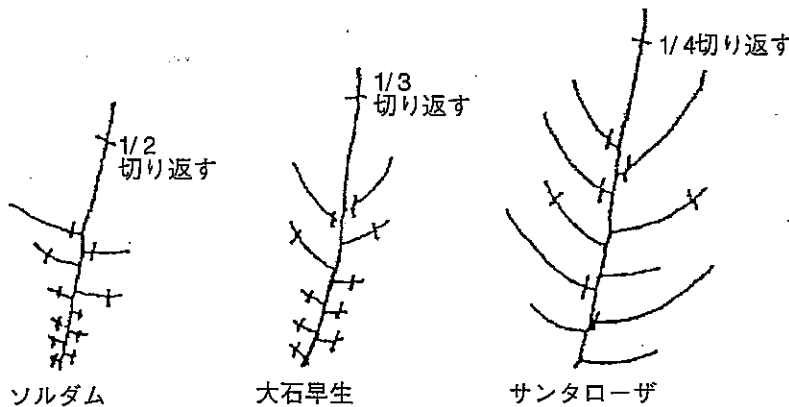
- ① 若木のうちは直立性であるが、年々開張してくる。

- ② 陰芽の発生が少ないので、はげ上がりやすく、結果部が上昇しやすい。



- ①主枝の数は2本とする。
- ②第1種枝の発出位置は地上50~80cm内外からとし、第2主枝は主幹の延長枝を利用する。
- ③主枝の斜立角度は、主枝全体として水平に対して50度前後に維持するが、第1主枝は第2主枝よりもやや開かせる。
- ④各主枝には各2本の亜主枝を位置し、6本の骨格枝で樹冠を構成する。
- ⑤第1亜主枝は地上1.0~1.5m付近から選び、第2亜主枝は第1亜主枝より50~80cm高めの位置からとる。
- ⑥亜主枝の斜立角度は水平に対して40度前後に維持し、主枝に対して60度前後の方向に伸長させる。
- ⑦主枝・亜主枝の整枝にあたっては、樹齢が進むと枝が混み合いやすいので、第2亜主枝はやや小型に維持し、主枝>第1亜主枝>第2亜主枝のバランスがくずれないように注意する。

第1図 モモの目標樹形 (「モモの作業便利帳」より)



第2図 スモモの品種別の結果枝のせん定方法

- ③ 日陰の枝では新梢の生育が著しく低下し、枝枯れや上げ上がりが多くなる。
- ④ 枝の上面や基部から発生した枝は強くなりやすい。
- ⑤ 施肥量が多くなると徒長枝が発生しやすい。これらの特性も考慮する必要があります。

慮してせん定に入ってください。  
また、罹病枝は病害虫の越冬源となるので取り除くようにしてください。

一般的に、日川白鳳は収穫後の新梢の伸びが旺盛で、中・長果枝の発生が多い傾向にあります。

そのため結果枝として中・長果枝を利用することになりますが、結果枝が長いほど果実品質・肥大不良、落果などを招きやすくなるので、中果枝を中心に利用し、長果枝は50cm程度までのものを利用しましょう。

### 土壌管理

モモの根は耐水性が弱いので、平坦部の排水不良園では溝切りや暗きよ排水が必要です。

また、地力の低い園では有機物(完熟堆肥)を投入し、地力増進をはかってください。

その際、薄く広げるのではなく、厚く(こんもりと)して発熱しやすいようにスポット的に置くようにしてください。

### 病害虫防除

カイガラムシ類を対象にマシン油乳剤97%三〇倍を散布します。  
遅くなるほどマシン油の皮膜効果で石灰硫黄合剤の付着性が悪くなりますので、一月上中旬までには散布

第1表 病虫害防除

品目	散布時期	対象病虫害	薬 剤	
もも	1月上中旬	カイガラムシ類	マシン油乳剤97%	30倍
	3月上中旬	稲葉病 黒星病 黒枯病	石灰硫黄合剤	7倍
すもも	1月上中旬	カイガラムシ類	マシン油乳剤97%	30倍
	2月中旬	ふくろみ病	石灰硫黄合剤 バルノックスフロアブル プルーク水和剤 ※上記薬剤のいずれか	10倍 500倍 500倍

してください。  
また、モモでは縮葉病・黒星病を  
対象に発芽前に石灰硫黄合剤七倍、  
同じくすももではふくろみ病を対象  
に発芽前に石灰硫黄合剤一〇倍を散  
布してください。  
コスカンバ対策としては、サッチュー  
コートS五〇倍、またはトラサイド  
A乳剤二〇〇倍を枝幹の被害部分を  
中心に散布または塗布します。

また、粗皮や落葉は病虫害の越冬  
場所となるので、集めて焼却処分し  
てください。



品種によつて枝の発生や伸長に違  
いがあるので、品種に応じて整枝・  
せん定を変える必要があります(第  
二図参照)。

◆ソルダム

短果枝の着生は良いが新梢の発生  
が少なく、樹勢が低下しやすいため、  
主枝・亜主枝の先端は二分の一程度  
に強めに切り返します。

また、中・長果枝を切り返し、短  
果枝を整理します。

◆サンタローザ

樹勢が強く新梢の発生が多いため、  
強せん定では生理落果が多くなりま  
す。間引きせん定を主体に、切り返  
しせん定は軽く行います。

◆大石早生

枝の発生はソルダムとサンタロー  
ザの中間ですが、サンタローザと同  
様の管理を行ってください。